

四環遊戯グループ（北京市）の意義と課題

——中国都市部における農民工・就学前流動児童の子育て支援に注目して——

王 聡

序章 問題意識

1980年代より、「改革開放」政策の実施に伴い、中国が経済の高速発展期を迎えた。これにより、東部と西部、都市と農村の経済格差もますます広がった。この巨大格差により、大規模な人口流動が促された。生活改善を求め、多くの農民が家族連れでこの大流動に参加した。そのうち、親と共に流入地に流動する子どもたちを巡った「流動児童問題」も出た。

90年代に入り、政府は義務教育段階の流動児童を対象とした関連政策を出し始めたが、「就学前」流動児童の教育のあり方に関する政策検討はまだ少なく、「入（幼稚）園難」となった「流動児童問題」が発生した。この問題の主要原因は、「学費が高い」「数が少ない」「入学手続きが難しい」ことにあるとする調査もある。行政上、就学前流動児童への教育支援がまだまだ不十分であることが分かった。

一方、多くの農民工家族は文化的公共施設が乏しい都市周辺に住み、街頭でうろろしている子どもの姿が随所に見られる。生計に没頭している親は、子どものことを顧みる余裕がない。そのため、流動児童の教育問題を考える際には、農民工家族の生活状況に配慮しながら、家庭教育、特に親の役割を重視すべきだという視点が必要である。そこで、農民工家族の最善の利益を守るため、公的支援以外の場で、民間の力も重視されるべきではないかという声も出た。

その中で、とても共感できるのは元北京師範大学教授・張燕が主張している就学前非正規教育論である。張燕は「流動児童の教育問題を解決するには、実際の状況から考えて適切な形式と道を見出さなければならない。流動人口は集まって住んでいるため、彼らの住んでいる地域こそが就学前教育の担い手となるべきである。コミュニティの中で非正規教育の形式でこうした子どもたちに一定の就学前教育を提供することができないだろうか」⁽¹⁾と述べ、民間に目を向け、力を求める姿勢を示した。

そして、張燕が主導して「北京市四環遊戯グループ」という取り組みを作り上げた。グループは子どもにとって遊びの場所であり、親にとっては学習の分かち合いと助け合いの場所にもなっている。その温もり、つながりがある人間関係を基盤とした民間の力は、流動児童の教育問題を解決する時にもう一つの可能性を示している。

筆者は日本で子どもの社会教育について学んで行く中で、子育て支援に関して、日本に豊かな実績と研究の蓄積がされていることに感心している。実情が異なるが、中国流動児童の教育問題の解決にあたって、いくつかの示唆が得られるのではないだろうかと考えている。そこで、本論文では、日本で得られた視点をもとに、「四環遊戯グループ」の実践を取り上げ、グループの意義と課題を検討していきたい。

第一章 農民工・就学前流動児童教育問題の登場

1-1 農民工・就学前流動児童の定義

「農民工」とは農村から都市に移り、非農業に従事しているが、戸籍上は、依然として農民身分の労働者を指す。地元に残される子どもは「留守児童」と呼ばれ、親とともに都市に流動する子どもは「流動児童」と呼ばれる。政府文書での言及はあまりないが、一般的に、6歳以下の子どもは「就学前流動児童」と呼ばれている。

1-2 農民工・就学前流動児童の生活状況

農民工と就学前流動児童は戸籍制度上厳しく制限されているため、本来得られるはずの社会保障、地域サポートや教育への権利などが保障されず苦しい立場に置かれている。その影響で、農民工と就学前流動児童は生活様式、社会融合、価値観などの面において困難な状況を抱えている。

1-3 就学前流動児童教育問題を巡る背景と政策

市場経済の導入に伴って、多くの国営企業は運営体制の転換が求められ、閉鎖が相次いだ。職員の福利厚生施設として企業に付属的に設置される幼稚園は母体の閉鎖に伴い、閉鎖されるようになった。現在、過大な料金を徴収する傾向がある私立園の数は公立園を大幅に上回っている。その上、戸籍制度での制限によって、幼稚園に通うために、就学前流動児童には都市部の子どもより多くの入学手続きが要求されている。こうして、就学前流動児童の幼稚園への入園は閉ざされている。

数年間の政策の空白期を経て、近年、就学前流動児童の教育問題は、ようやく政府と行政部門の視野に入り、いくつの政策が出されてきたが、まだまだ不足している。

第二章 農民工家族の子育てと支援の状況

2-1 農民工家族の子育ての現状

農民工家族にとって、家庭教育の基盤としての家族の生活や地域が変貌、衰弱し、重層的な子育て困難を生み出している。そして、経済的な貧困・文化的な貧困により、養育力が欠落している農民工家庭では、子どもの保護者自身も大きな問題を抱えている。今後、農民工家族に対する子育て支援を考える際には、親の支援がもっと重視されるべきである。

2-2 農民工家族に適する子育て支援—「民間非正規教育」の役割

日本でいう「非定型教育」(Informal Education)は中国で「非正規教育」として捉えられている。農民工家族の教育ニーズに応じるため、就学前流動児童に向けた非正規就学前教育が登場した。この教育は模索と発展を経て、就学前流動児童の教育問題を解決するにも寄与することが証明され、重要な役割を果たしている。民間非正規教育が就学前流動児童の教育の場・農民工への子育て支援の場という二つの機能を持つ教育形式として、重要な意義を持っている。

第三章 「四環遊戯グループ」の意義と課題

3-1 四環遊戯グループの概略

2004年、当時北京師範大学就学前教育教授であった張燕およびその弟子たちは当時の北京四環市場で考察をした際に、露店商を営む農民工の子どもたちは通えるところがない状況を受け、市場内の空き地を借り、四環遊戯グループを設立した。「非営利性」は理念として定められ、金銭的ハードルがある農民工家族も通いやすいところとなっている。子どもが仲間とともに、日常生活での交流や遊び・文化活動でのかかわりとともに豊かに成長することが重視されている。それと同時に、親への支援活動も考えられている。それは親を育てるあるいは親を助けるという意味合いにとどまるのではなく、親の主体性と親自身が持っている教育力を尊重し、発掘し、「育児」と同時に「育自」を実現させるよう働きかけている。

3-2 「四環遊戯グループ」の意義

3-2-1 子ども・保護者双方に対する教育活動の展開

参加者の親・子に対して、それぞれ教育的な活動が行われている。モンテッソーリ教育を実践することによって、子どもの秩序性とコミュニケーション能力が育つ。そして、徳育教養を強調する活動を通して、子どもはしつけ、行動様式において、明らかな変化を見せる。

また、親たちを単なるサービスの受け手にさせるのではなく、彼らの自発性と主体性を十分引き出し、活動と運営にも参画させる。こうして、四環遊戯グループは農民工家族の子育て支援組織として持続的に発展を遂げた。

3-2-2 福祉・文化としての取り組みの展開

四環遊戯グループは教育的活動に止まらず、保育・養育・遊育・食育といった多くの面からも子どもの成長・発達を保障する。それらの活動は子どもだけを対象としているのではなく、親も含み、両者を兼ね合わせる形で行われている。活動の実施の意義としては、まず子どもの精神を活性化させ、人間性が豊かに育まれていることがあげられる。そして、親は子どもを育てていくうちに、親自身も育てられ、育児知識を受け入れるのではなく、感性的に「子育て」に対する理解が深まることもある。その子どもへのまなざしの変化によって、親子関係に、よい変化が生まれる。

3-3 今後の課題

3-3-1 「教育」概念の捉え直し

社会の発展とともに、中国でも日本のように子育て環境と家族の形態に変化が生じた。かつてはあまり意識されなかった「育児不安」という言葉も、昨今の中国では聞かれるようになっていく。現代中国においては、子育てをめぐる、いくつかの問題が出ている。

まず問題なのは、子育てにおける「わが子中心」の子育て観である。中国の子育てで重要なのは「教育」であり、特に「学校教育」「受験教育」といった「教育中心」の子育て観が主流となっている。ここで、日本での子育て研究にある視点を持ちながら、まず、子どもをどう見るのかという「児童観」の問題に触れる。そして、「わが子中心」という狭い子育て観に対して、「よその子」も含めて子育てをし

ていくという広い子育て観が必要であることを提示する。

さらに、子育てには、以上に提示した子どもを見る視点の他、教育の中に位置づけるだけでなく、「育」をもっと豊かな視点で捉えることが求められる。

3-3-2 地域との連携

地域には、豊かな教育力が蓄積されている。都市部に流動してくる子どもにとって、いかに早く現地の生活に馴染めるかが重要な問題である。しかし、四環遊戯グループは現在でも、地域から完全な理解と支持を得られていない現実もある。今後、そういう問題にどう向き合って、解決するのが大きな課題である。

終章

本論文では、都市生活に隔絶されている農民工・就学前流動児童の子育ての困難状況をめぐって、民間非正規の支援組織―「四環遊戯グループ」の意義と課題を検討することを通して、農民工・就学前流動児童に対する持続可能な子育て支援の形式を考察してきた。

筆者が「四環遊戯グループ」の活動内容を理解するうえで日本の子育て支援現場と研究から多くの示唆を得た。日本の研究から得た視点を持ちながら、四環遊戯グループの実践を検討することが、より多くの支援組織の設立と発展に貢献することとなれば幸いである。

注

- (1) 張燕 主編 2010『非正規学前教育の理論と実践―四環遊戯グループを手掛かりに』北京師範大学出版社 p171